

授業概要

現代は激動の時代といえます。2020年からコロナ禍がはじまり、2022年のロシアによるウクライナ侵攻や2023年秋のイスラエルとハマスとの紛争など、多くの困難な事態が発生しています。国際情勢の混乱を背景に、貿易や投資が細り、物資が不足してインフレが蔓延、各国は景気の減速に直面しました。世界の対立構造により、経済のブロック化が進むことも懸念されています。本演習では、最近発行された初心者向けのビジュアルな教材を用いて、世界経済の現在をとらえ、将来を展望します。世界経済を巡る様々な重要事象の意味や背景を適切に理解することによって、将来的に社会で活躍する上での足がかりを作ることをこの演習の目的として指導します。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	世界の GDP—ランキングの推移と将来予測—
第 2 回	主要国の経済成長率—高成長を続ける国と低成長にあえぐ国—
第 3 回	人口の減る国・増える国—2100 年における世界の人口分布—
第 4 回	世界の借金—年々増加する日本の国債発行
第 5 回	世界各地がインフレに見舞われた原因は？
第 6 回	貿易摩擦や武力紛争の結果、世界経済のブロック化が進む
第 7 回	米中対立で深まるデカップリング
第 8 回	戦略物資となった半導体の争奪戦を制するのは？
第 9 回	「失われた 30 年」の日本で株価の値上がりが発生
第 10 回	循環型の新しい経済のあり方
第 11 回	国が管理しない暗号資産が通常の通貨に代わる可能性は？
第 12 回	進化する AI でどのような影響があり、どんな仕事なくなるのか
第 13 回	気温上昇、熱波、干ばつなどの異常気象が世界経済を翻弄する
第 14 回	GAFAM から MATANA へ—変わりゆくビッグテックの勢力図—
第 15 回	人民元をデジタル化して普及させる中国政府の目論見
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

- 世界経済の基本的動向や変遷を、適切に理解できる。
- 世界経済が直面する構造的な諸課題を理解するとともに、それらの処方箋を提示することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意義な議論を展開することができる。

履修上の注意

教養演習Ⅱを通して、資料の作成、発表、議論などのやり方をきちんとマスターすることが重要です。また、毎回出席も当然のこととして必要となります。さらに、適宜将来の就職活動に向けての心構えも指導する予定です。

予習・復習

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された箇所を事前に読んで理解し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

評価方法

担当箇所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：『地図でスッと頭に入る 世界経済』
- ・監修者：蔭山 克秀
- ・出版社名：昭文社
- ・出版年：2024 年 6 月（ISBN 978-4-398-14478-2）本体 1,600 円＋税

授業概要

グローバル化やダイバーシティな社会が進む中、地球上に住む約80億人の人々のニーズに合わせた様々なビジネスシーンが求められるようになってきた。また、次々と進化するテクノロジーの出現に伴い、新たな注目ビジネスが次々と登場してきている。本演習では、現在注目されている様々なビジネスについて取り上げ、理解を深め、活発なディスカッション等を行いながら、関心あるテーマを掘り下げ、自ら考え、表現する力が修得できるように指導する。激変する社会では、柔軟な思考が求められ、変化やサインを見逃さないきめ細かな洞察力や、他者を受け入れる寛容な姿勢が重要となってくることに ついても、演習を通して指導する。

授業計画

第1回	進化し続ける人々のニーズ、複雑で複合的な人々のニーズとビジネスの在り方
第2回	注目のビジネス1：水素ビジネス
第3回	注目のビジネス2：再生可能エネルギービジネス
第4回	注目のビジネス3：宇宙・航空ビジネス
第5回	注目のビジネス4：防衛ビジネス
第6回	注目のビジネス5：エコビジネス、グリーンビジネス
第7回	注目のビジネス6：ウエアラブルデバイスビジネス
第8回	注目のビジネス7：セルフケア・セルフヒーリングビジネス
第9回	注目のビジネス8：医療・介護ロボットビジネス
第10回	注目のビジネス9：再生医療ビジネス
第11回	注目のビジネス10：アンチエイジング・ビジネス、不老不死ビジネス
第12回	注目のビジネス11：スマート農業、スマート漁業
第13回	注目のビジネス12：メタバースビジネス
第14回	人類の未来と成長するビジネス
第15回	まとめ
第16回	試験

到達目標

- ・変化の激しい現代社会の現状を説明できる。
- ・最新の注目のビジネスの内容について説明できる。
- ・自身の関心のあるビジネスを掘り下げることができる。
- ・柔軟な思考をすることができる。
- ・コミュニケーションスキルが修得できる。
- ・プレゼンテーションスキルが修得できる。
- ・ライティングスキルが修得できる。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎する。

予習復習

毎回授業前に次回の単元について1時間程度予習をし、毎回振り返りのための復習を単元終了後1時間程度行うこと。

評価方法

発表点（25点）、レポート点（25点）、試験（50点）

テキスト

教科書名：ニュースがわかる日本地図 '25

著者名：なるほど知図帳日本編

出版社名：昭文社

出版年：2024年（ISBN:978-4398200822） 2090円

授業概要

1 年次の教養演習は、2, 3, 4 年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は、例年、学生が選択した興味関心のある事項としているが、話し合いの上。統一的なものにすることもある。また、就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で、上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

第 1 回	演習での姿勢とレジュメの作成方法
第 2 回	テーマの選択と資料収集の方法
第 3 回	時事問題（夏季休業中の出来事など）を考える①
第 4 回	1 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 1 グループ）
第 5 回	1 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 2 グループ）
第 6 回	1 回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討
第 7 回	時事問題（その時点での出来事（新聞記事等））を考える②
第 8 回	2 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 1 グループ）
第 9 回	2 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 2 グループ）
第 10 回	時事問題（その時点での出来事（新聞記事等））を考える③
第 11 回	3 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 1 グループ）
第 12 回	3 回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第 2 グループ）
第 13 回	課題レポートの作成についての説明（章立てと結論など）
第 14 回	提出するレポートの途中経過の報告
第 15 回	修正したレポートの内容検討（と「パワーポイント」を使用したプレゼン）
第 16 回	定期試験（または定期試験に代わるレポート）

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

- ・プレゼン用のレジュメを作成でき、それに基づいた質疑応答ができる。

履修上の注意

- ・人数が少ない場合には、会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。
- ・講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。
- ・就職活動における「教養」は、上記のような時事についての理解のみならず、適性試験（言語・非言語）という形式で問われることが多いため、適宜、そちらも指導する。
- ・全員参加での課外授業を実施する場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

予習・復習

毎回ではないが、事前に下調べを行い、発表のためのレジュメを作成してくる。
プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点 45%・定期試験（または定期試験に代わるレポート）55%程度で評価する。
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが、特に使用しない予定。

授業概要

社会人基礎力養成の前提となることを指導します。なぜなら、皆さんの直近の目標は、就職して(社会人になること)だからです。そこで、1年次秋期では、インターンシップに必要なことを中心に指導します。その理由は、就職戦線がどんどん低学年に降りてきているからです。具体的には、例えば、2年次に特定のインターンシップに参加することにより、内々定してしまうこともあるからです。他大学の学生に負けてはいけません。そこで、本学学生の2年次の春期(特に夏休み)には、インターンシップに行って、仕事というものを、知り、経験し、自分の目指す仕事を見極めてもらおうと思います。したがって、その前に、1年次の秋期(教養演習Ⅱ)で、インターンシップのことを網羅的に学習し、実践し、2年次のインターンシップ、企業訪問などに十分な備えをしておくことが目標です。

授業計画

第1回	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方全般、資料配付等の説明)
第2回	アイスブレイキング
第3回	図書館の利用の仕方
第4回	マンドラ・チャートの書き方
第5回	インターンシップとは
第6回	自分史を作成する
第7回	自分の強み・弱みを把握する
第8回	企業研究のやり方
第9回	志望動機の書き方
第10回	履歴書の書き方、エントリーシートの書き方
第11回	面接で聞かれることは?
第12回	グループディスカッションのやり方と実践
第13回	会社へのメールの仕方、お礼状の書き方等
第14回	SPIとは?社会常識テストとは
第15回	まとめ
第16回	期末レポートの提出

到達目標

社会人としての資質・能力を養成するために、次のような人材養成内容を到達目標にします。

- 1 自分の目標、自分の強み・弱み、を正確に把握することができる。
- 2 志望動機と企業研究とが、有機的につながった形で、理解できる。
- 3 履歴書や、エントリーシートを適切に書くことができる。
- 4 グループディスカッションのやり方を知ることができる。
- 5 会社へのメールや、お礼状を適切に書くことができる。
- 6 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPIや常識問題を解くことができる。

履修上の注意

- 1 授業には、毎回出席すること。社会人になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。

予習・復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

評価方法

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

テキスト

- ・教科書名：なし(授業で独自資料を配布します)

授業概要

クリティカル・リーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などに先立つ資料等の読解において必要なスキルである。本演習では、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることが出来る。併せて、論証がきちんとなされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明
第2回	「新聞記事」の読解1
第3回	「新聞記事」の読解2
第4回	「新聞記事」の読解4
第5回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第6回	「評論文」の読解1
第7回	「評論文」の読解2
第8回	「評論文」の読解3
第9回	「評論文」の読解4
第10回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第11回	「雑誌論文」の読解1
第12回	「雑誌論文」の読解2
第13回	「雑誌論文」の読解3
第14回	「雑誌論文」の読解4
第15回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第16回	期末レポート

到達目標

文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることが出来る。

履修上の注意

遅刻や欠席をせずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。必要に応じて教員がレポート等の課題を課す。学生と講師によるディスカッションを本演習では大切にしたいと考えている。

予習・復習

★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
 ★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
 ★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。

評価方法

1】期末レポートの成績（50%）2】毎回の課題の提出状況（30%）3】授業への貢献度（20%）

テキスト

教員オリジナルの資料を使用する。

授業概要

本演習では、大学で学ぶ目標をしっかりと持つことなど、今後の就学に必要なスキルを修得することを目標としている。自分でしっかりと自分の課題を見つけ、それについて考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、特に、会計学関連の基礎的な考え方を習得することができるように指導する。それ以外にも2年次に履修する基礎演習の準備ができるようにしたい。

授業計画

第1回	本演習の進め方や評価方法
第2回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第3回	専門的な文章の読解力の向上①
第4回	専門的な文章の読解力の向上②
第5回	専門的な文章の読解力の向上③
第6回	専門的な文章の読解力の向上④
第7回	専門的な文章の読解力の向上⑤
第8回	文章の要約力とレジュメの作成①
第9回	文章の要約力とレジュメの作成②
第10回	文章の要約力とレジュメの作成③
第11回	各自のテーマによる調査発表と討論①
第12回	各自のテーマによる調査発表と討論②
第13回	各自のテーマによる調査発表と討論③
第14回	各自のテーマによる調査発表と討論④
第15回	各自のテーマによる調査発表と討論⑤
第16回	まとめ（レポート提出）

到達目標

- ・豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることができる。
- ・それを念頭に置いた上で会計学の基礎的な考え方を向上させ、より高度な学習へと進める能力を養うことができる。

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。
- ・就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

予習・復習

- ・配布資料を事前に目を通しておくこと
- ・発表や講義の要点をまとめること
- ・数回分の課題レポートを提出してもらう。

評価方法

レジュメの作成と発表（40%）、課題レポート（40%）、ゼミでの積極性（20%）などを総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

この演習では「教養演習Ⅰ」を受けて、社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力（総称して「社会人基礎力」）などをさらに育て伸ばすことを目的として、社会人基礎力を涵養するPBL（Project-Based Learning）のうち、自律的な主体性開発メソッドを実践、指導する。なお、履修者数により下記の授業計画を変更する場合がある。

授業計画

第1回	ガイダンス（この演習の進め方）
第2回	オリエンテーション：自己紹介、王様ゲーム
第3回	軽く議論してみよう：見た目のこわさ、ひょっこりひょうたん島
第4回	自分の意見を伝える：人生相談、キャンペーンアイキャッチ
第5回	本格的な議論：埼玉祭・明晩祭の動物園(1)
第6回	本格的な議論：埼玉祭・明晩祭の動物園(2)発表
第7回	情報を集める：ダイエットスキル(1)
第8回	情報を集める：ダイエットスキル(2)発表
第9回	個性を活かす：わたしのキャラ
第10回	情報を分析する：後輩に勧めたい住む街(1)
第11回	情報を分析する：後輩に勧めたい住む街(2)発表
第12回	問題提起：オーケストラの憂鬱(1)
第13回	問題提起：オーケストラの憂鬱(2)発表
第14回	計画の構想：SaiGaku Tower (1)
第15回	計画の構想：SaiGaku Tower (2)発表
第16回	ふりかえり

到達目標

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 課題を自ら発見し、チームで協働することで解決ができる
- (4) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (5) プレゼンテーション資料を作成できる

履修上の注意

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持ち、自律的な主体性を習得することにある。テキスト内容を一から十まで読み上げるような、受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席・遅参を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。

予習・復習

毎回の授業の中で、次回までに進めておくべき授業外学習（予習・復習）を指示する。授業外学習はグループで発表する準備（打ち合わせ）が主で、グループ内での打ち合わせ時間調整も必要である。学習に取り組む時間の目安は1回あたり合計120分程度である。

評価方法

①演習への取り組み姿勢（25%）、②発表回での取り組み姿勢（各15%×5回＝計75%）で、総合的に評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント10.Opt以上が必要条件である。

テキスト

必携のテキストは用いない。

授業概要

本演習のテーマは「戦略的学習者になろう」である。

大学での学び方について考えることと、読解力、文章力、プレゼンテーション能力などを習得することを目的とする。

この演習に参加することで、学ぶことの意味を考え、有意義な大学生活が過ごせるようになり、自分の将来像を描けるようになるよう、指導する。またビジネスや社会、経済、政治などに関する時事問題にも関心を持つよう指導する。

生涯を通して効果的かつ効率的な学習者になることを究極の狙いとしている。

授業計画

第1回	概要
第2回	チームビルディング
第3回	「学び方」を学ぶ①自分の限界を再設定する方法
第4回	「学び方」を学ぶ②集中力を高める方法
第5回	「学び方」を学ぶ③記憶の方法
第6回	「学び方」を学ぶ④価値を見出す
第7回	「学び方」を学ぶ⑤目標を決める
第8回	「学び方」を学ぶ⑥能力をのばす
第9回	マインドマップとは
第10回	マインドマップの作成
第11回	プレゼンテーション①情報収集
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

到達目標

- ・大学での学び方を習得することができる。
- ・読解力・文章力・プレゼンテーション能力を向上させることができる。

履修上の注意

- ・1年次の学生は全員履修の科目である。
- ・多くの文献を読み、多くの文章を書く必要がある。
- ・よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内にはゼミ生同士で積極的に議論する必要がある。
- ・学外活動を行う場合がある。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組み（30%）、課題の提出状況（30%）、レポートまたは試験（40%）により総合的に評価する

テキスト

指定しない

授業概要

本演習は、本を読むことで、「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学び、今後の講義や演習、社会に出て実践する能力を身につけられるよう指導します。具体的には、事前にテキストを読み、その要約とコメントをレジュメとして毎回提出してもらいます。それをもとに全員でディスカッションをおこないます。ケーススタディでは、チームで企業について調査、分析、発表をおこなってもらいます。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	思考の整理学 輪読 1
第3回	思考の整理学 輪読 2
第4回	思考の整理学 輪読 3
第5回	思考の整理学 輪読 4
第6回	思考の整理学 輪読 5
第7回	思考の整理学 輪読 6
第8回	思考の整理学 輪読 7
第9回	思考の整理学 輪読 8
第10回	思考の整理学 輪読 9
第11回	思考の整理学 輪読 10
第12回	プレゼンテーション①：思考の整理学
第13回	プレゼンテーション②：思考の整理学
第14回	ケーススタディ：東京ディズニーリゾート①
第15回	ケーススタディ：東京ディズニーリゾート②
第16回	レポート提出

到達目標

- ① 『思考の整理学』を理解し、説明できる
- ② 企業について、調査、分析、発表ができる

履修上の注意

- ① 遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ② 演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

予習・復習

- ① 予習は、次回講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ② 復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

- ① 毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ② プレゼンテーション、レポートの内容を評価します。50%

テキスト

- ・教科書名：思考の整理学
- ・著者名：外山 滋比古
- ・出版社名：筑摩書房
- ・出版年（ISBN）：1986年（978-4480020475）

授業概要

現在は、スポーツもビジネスの対象となっています。この授業では、どのようにすれば、人がスポーツに興味・関心を持つのか、人がスポーツをするようになるのかをビジネス、学生の視点から考えていけるよう指導していきます。グループで議論をし、アディアを出し合い、共有し、まとめ、発表を行ってもらいます。また、授業後半には、グループワークで学んだことを活かし、個人でも発表してもらいます。

教養演習Ⅱで考えたアイディアをもとに、2年生の基礎演習では、実践につなげていきます。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	自分の好きなもの・ことについて調べる（準備）
第3回	自分の好きなもの・ことについて相手に伝える（発表）
第4回	グループワーク①「するスポーツ」についてグループで議論する
第5回	グループワーク①「するスポーツ」について調べる
第6回	グループワーク①「するスポーツ」についてまとめる
第7回	グループワーク①「するスポーツ」について発表する
第8回	グループワーク②「みるスポーツ」についてグループで議論する
第9回	グループワーク②「みるスポーツ」について調べる
第10回	グループワーク②「みるスポーツ」についてまとめる
第11回	グループワーク②「みるスポーツ」について発表する
第12回	個人活動①「スポーツビジネス」のアイディアを出す
第13回	個人活動①「スポーツビジネス」のアイディアをまとめる
第14回	個人活動①「スポーツビジネス」のアイディアを発表する①
第15回	個人活動①「スポーツビジネス」のアイディアを発表する②
第16回	レポート提出

到達目標

本演習は、以下の2点を到達目標とします。

- ・調べたこと、まとめたことを分かりやすく相手に伝えることができる。
- ・グループで協力し、スポーツビジネスについて知ることができる。

履修上の注意

- ・グループワークを行うため毎回の授業に必ず出席してください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、水野まで連絡をすること。

予習・復習

予習：テーマについて調べる。発表担当者は発表の資料（レジュメ・パワーポイント）を作成する。

復習：学習した内容の理解を深めるために、類似するスポーツビジネスについて調べる。

評価方法

- ・授業・課題への取り組み（20%）、グループ活動（30%）、発表（25%）、成果物（25%）で評価する。

テキスト

- ・授業ごとに資料を配布するためテキストの購入はない。参考文献は必要に応じて授業内で提示する。

授業概要

近年、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが求められています。そこで本演習では、テキスト（新書）を受講生全員で議論しながら、持続可能な社会の実現に向けて必要となる基本的な概念や知識を学んでいけるよう指導する。本演習での学びは、今後の大学での学びや就職試験につながるほか、将来的に社会で活躍する上で必要な土台の形成につながります。

各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表します。その内容について全員で議論する形で進めていきます。このように毎回主体的な授業参加が求められます。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の進め方の確認・春期の振り返り）
第2回	第1章：人間が死ぬ理由は環境破壊？経済の停滞？①（pp.1-21）
第3回	第1章：人間が死ぬ理由は環境破壊？経済の停滞？②（pp.22-36）
第4回	第2章：それぞれが頑張れば問題は解決？（pp.37-56）
第5回	第3章：日本はリサイクル先進国だから大丈夫？①（pp.57-80）
第6回	第3章：日本はリサイクル先進国だから大丈夫？②（pp.81-96）
第7回	第4章：日本よりも中国・アメリカが頑張るべき？①（pp.97-113）
第8回	第4章：日本よりも中国・アメリカが頑張るべき？②（pp.114-136）
第9回	第5章：人の命と生き物の命、どちらが大切？①（pp.137-155）
第10回	第5章：人の命と生き物の命、どちらが大切？②（pp.156-166）
第11回	第6章：上下水道とダムさえあればもう安心？①（pp.167-183）
第12回	第6章：上下水道とダムさえあればもう安心？②（pp.184-202）
第13回	テキストに関するテーマについてグループ発表①
第14回	テキストに関するテーマについてグループ発表②
第15回	総合討論・まとめ
第16回	レポート提出

到達目標

- 日本経済・世界経済を中心とした現代社会についての基本的な考え方を理解し、課題や改善策などについて自らの意見を持つことができる。
- 報告資料を適切に作成し、プレゼンテーションを実施することができる。
- 各回で取り上げるテーマについて、自らの意見を表明して、有意義な議論ができる。

履修上の注意

- 教養演習Ⅰを履修していること。
- 担当部分について報告資料を事前に作成する必要がある。
- 予習、復習を行い、議論に積極的に参加すること。

予習・復習

予習：テキストの指定された箇所を事前に読んで理解する。その他、報告内容の準備を行うこと。

復習：授業で取り扱った内容を自らの言葉で説明できるように復習すること。

評価方法

担当部分の発表 30%、各回の議論への貢献度 30%、課題レポート 40%

テキスト

- ・教科書名：『持続可能な発展の話―「みんなのもの」の経済学』
- ・著者名：宮永健太郎
- ・出版社名：岩波新書
- ・出版年（ISBN）：2023年（978-4-00-431974-0）

授業概要

「教養」という科目は、高校の教科にはなかったのではなかろうか？「教養」とは、社会人として必要な広い文化的な知識であり、その内容は時代・社会とともに変化する。「教養」を身に着ける方法の1つは、「新書」を読むことである。ここでは、「新書」として『2030-2040年 日本の土地と住宅』（野澤千絵）』を読み込み、レジュメにまとめ、発表し、みんなで討論して、本当に「あと5年で、首都圏の不動産は大きく動き出す」のかについて考えるなかで、社会人として必要な「教養」を手に入れる手法について指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方、評価方法）
第2回	序章
第3回	この10年の地価高騰を読み解く（1）
第4回	この10年の地価高騰を読み解く（2）
第5回	今、なぜ、家が手に入りにくいのか？（1）
第6回	今、なぜ、家が手に入りにくいのか？（2）
第7回	高コスト化する再開発（1）
第8回	高コスト化する再開発（2）
第9回	中古マンション編：住宅の流通量が増加する駅（1）
第10回	中古マンション編：住宅の流通量が増加する駅（2）
第11回	中古マンション編：住宅の流通量が増加する駅（3）
第12回	中古戸建編：住宅の流通量が増加する駅（1）
第13回	中古戸建編：住宅の流通量が増加する駅（2）
第14回	中古戸建編：住宅の流通量が増加する駅（3）
第15回	終章
第16回	期末試験（課題レポート）

到達目標

- ・「新書」に挑戦し、読み込むことができる。
- ・「新書」を読んだ内容を仲間に説明することができる。
- ・自ら説明したことや仲間から受けた説明に関して、質疑応答することができる。
- ・仲間と討論することによって、「新書」には書かれていなかった自分なりのテーマを見つけることができる。

履修上の注意

高校の教科にはなかった「教養演習」で身に着けた手法は、これから大学において様々な学問や自らの専門分野を習得するうえで大いに役立つ。毎回演習に参加して、それを習慣化しよう。
授業のスピードは、受講生の理解度などを勘案のうえ適宜適切に調整する。

予習・復習

予習：発表担当者は、担当箇所を読み込み、レジュメを人数分用意し、発表後の想定問答をイメージしておく。その他の参加者は、各回の箇所を読み込んで、質問を1つ考えてくる。
復習：課題レポートのために、各回の発表内容や質疑応答の内容を取りまとめておく。

評価方法

担当箇所の発表と質疑応答（50%）、発表者への質問（30%）、課題レポート（20%）

テキスト

- ・教科書名：2030-2040年 日本の土地と住宅
- ・著者名：野澤千絵
- ・出版社名：中公新書ラクレ
- ・出版年（ISBN）：978-4-12-150828-7

授業概要

この演習では「道具としての数学の使い方」をテーマにして、皆さんがこれまでに学んできた数学が、世の中の様々な場面でどのように活用されてきているのか考え、自分なりに理解した内容や理解に至るまでのプロセスをまとめ、発表できるよう指導します。

経済・経営分野に限らず、人文・社会・理工系の多くの分野では数学を道具のように利用する場面が多々あります。どのような場面でどのように活用できるのか。また、紙と鉛筆以外にもコンピュータを利用した数学ツールが多く存在し、それらの使い方を習得することで、これまで数学が苦手だった学生であっても数学が身近なものに感じられるようになるでしょう。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	ワープロ、スライド作成における数式入力要領
第3回	グラフ作成ツール
第4回	数学の理解を助けるツールの紹介
第5回	まとめ①
第6回	計算を楽にする方法
第7回	事象の傾向を知り、未来を予測する道具
第8回	掛け算・割り算をちょっと発展させてみよう
第9回	無限と有限、厳密と近似
第10回	まとめ②
第11回	色々な波を数学的に表してみよう
第12回	情報をまとめて扱いやすくするための数学的な表現
第13回	コンピュータを動かす数学的な原理
第14回	データの特徴を捉える数学的な手法
第15回	まとめ③
第16回	レポート提出

到達目標

- 道具としての数学の使い方について理解できる。
- レジюмеやレポートの書き方を学び、各回の授業において事前に作成できる。
- プレゼンテーションの手法を学び、各回の授業で適切にできる。
- ディスカッションのやり方を学び、各回の授業において効果的にできる。

履修上の注意

教養演習Ⅱを通して、資料の作成、発表、議論などのやり方をきちんとマスターすることが重要です。この演習は教室でノートPCを用いて行います。そのため、各自のノートPCを持って来て下さい。また、全学共通科目の「数学（線形代数基礎）」「数学（解析基礎）」を履修していると、本演習に限らず両数学科目に対しても、一層理解を深められるだろうと思います。

予習・復習

予習は、テキストの次の講義の該当箇所を読んで、レジюме（要約とコメント）を作成してください。復習は、演習中に新たに出てきた用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

授業への取り組み、課題提出状況、レポート等により評価する。

レジюме等の作成・発表内容：30%

レポート提出：30%

ディスカッションへの貢献：40%

テキスト

・なし。必要に応じて資料を配布します。

授業概要

本演習では、日本や世界の社会・経済・政治問題にかかわる特定のテーマを取り上げて、議論を深めて、結論を得られるよう指導します。一般的によく認識されている課題ながら、その本質やソリューションについて十分に考えているでしょうか。これらは経済学・経営学はじめ各分野とも密接にかかわるテーマであり、大学生として社会課題を探究することによって、調べたり考えたりする訓練が身につく、その成果として、インテリジェンス(インフォメーションではありません)が得られることに繋がります。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	再生エネルギー100%になれば地球温暖化はじめエネルギー問題は解決するのか
第3回	世界で人口減を解決することが優先すべき課題なのか
第4回	なぜ地方から東京への人口集中が止まらないのか
第5回	なぜ政治家は財政の無駄使いをやめないのか
第6回	資本主義は格差拡大により行き詰るのか、民主主義もダメになるのか
第7回	デフレは本当に悪いのか、インフレが本当にいいのか
第8回	なぜ役所におカネがないのか、それは解決できないのか
第9回	日本の中小企業への手厚い保護政策は続けるべきか
第10回	なぜ自動車の自動運転実現の目途がなかなか立たないのか
第11回	再度のグローバル化によるコストダウン、インフレ沈静化は可能か
第12回	高齢化は本当に問題なのか
第13回	アメリカは保護主義の国になってしまったのか
第14回	日本は人口減社会でもやっていけるのか
第15回	まとめとこれからの問題意識について
第16回	期末試験または期末レポート

到達目標

- ・社会・経済・政治問題に取り組み、自らの答えを得るプロセスを習得できる。
- ・自らの答えを集積してインテリジェンスを得ることができる。

履修上の注意

毎回の演習時に次回テーマの論点とヒントを示しますので、必要な調査の上で自分の考えを整理した上で、演習での議論で積極的に発言してください。また、3回に1回くらいのペースで担当を割当てプレゼンテーション形式を採用しますので、その際も活発な議論を期待します。毎回何らかの結論を得てクローズします。なお、状況次第で個々のテーマを一部変更する可能性がありますことをご理解ください。

予習・復習

次回テーマについて課題を出しますので調査に基づく自らの意見をまとめておいていただきます。当日の演習の最後で議論後の要点を記入し、提出して終了です。

評価方法

授業と事前準備の内容 70%、期末試験または期末レポート 30%で評価します。

テキスト

必要な資料は用意します。

授業概要

この授業は、「教養演習Ⅰ」で修得した知識や技術をもとに、書籍や文献を詳読し、調査を実施した上で、レポートの作成や発表を行います。本演習では、情報リテラシーとして身に付けておきたいインターネット社会での情報取り扱いに関するテーマを題材として、調べた広い知識から一つのテーマをより深めていく学習方法を身につけます。少人数グループ学習でディスカッションし、論理力、批判力、統合力を育成し、さらに成果発表を通してプレゼンテーションスキルを修得するために学習していきます。

授業計画

※「授業の計画」はクラスの状況、進行によって変更することがありますので、ご理解ください。

第1回	オリエンテーション(スケジュールと進め方)、シラバスの説明、調査方法についての説明①
第2回	調査方法についての説明②
第3回	グループ学習①：グループ活動運営計画を立案する。テーマ設定、役割分担、スケジュール
第4回	インターネット社会（SNS など）での情報の取り扱いについて
第5回	グループ学習②：インターネットと社会での課題、調べてきた内容をディスカッション
第6回	グループ学習③：フィールドワーク(学内調査を含む)を行うテーマをディスカッション
第7回	グループ学習④：フィールドワークを行うテーマの調整（被らないテーマとする）と決定
第8回	グループ学習⑤：フィールドワークを行う場所、内容、スケジュールをディスカッション
第9回	グループ学習⑥：フィールドワークを実施先とのスケジュール調整(受け入れ先を探す)
第10回	グループ学習⑦：文献調査と並行して、フィールドワークを実施する
第11回	グループ学習⑧：文献調査と並行して、フィールドワークを実施・終了する
第12回	グループ学習⑨：調査結果を集約・分析し、グループレポートの作成を開始する
第13回	グループ学習⑩：分析結果を踏まえて、グループレポート・発表内容を作成する
第14回	グループ学習⑪：全体発表の内容準備、プレゼン資料、Q&A の作成
第15回	グループ毎に調査結果発表会、1 年次のまとめ、ポートフォリオの提出日を指定

到達目標

本授業の到達目標は以下の3つとなります。

- ① 書籍や論文を批判的に読み解くことにより、批判力、論理力の重要性を理解することができる。
- ② 調査を通して実社会についての理解、基礎的な実証的データ収集と分析ができる。
- ③ グループ内発表やレポート作成と全体発表を通して自分の考えを相手に効果的に伝えることができる。

履修上の注意

「教養演習Ⅰ」の単位を修得していること。グループ学習には積極的に参加してください。グループ学習については授業外などの日程で実施される可能性があるため、グループ内で確認すること。

※シラバスはクラスの状況、講義の進行状況によって変更することがありますので、予めご理解下さい。

予習・復習

各自でテーマに沿った文献を検索し、図書館を利用して文献を取り寄せ、レジュメ作成時に活用してください。効果的なグループ学習ができるように計画的に、事前準備をして演習に出席してください。授業後は、学習内容および学習成果を振り返り、自身で情報を整理しておくことが重要です。

評価方法

グループ活動の取り組み状況（コミットメント）・貢献度（25 点）、②レジュメ・討議資料・グループレポートの作成等（35 点）、③発表会でのプレゼンテーション方法&内容（20 点）④ポートフォリオの活用（提出期限・自己評価）（20 点）合計 100 点、ただし、グループ学習への取り組み参加不良者は不可となります。

テキスト

- ・教科書名：10 代からの情報キャッチボール入門 使えるメディア・リテラシー情報リテラシー
- ・著 者 名：下村健一
- ・出版社名：岩波書店
- ・出 版 年（ISBN）：2015 年(978-4000610414)

その他、必要な資料(フィールド調査の学び方を学ぶための資料等)を配布します。参考書を別途指示します。

授業概要

大学生活にもようやく慣れ、大学での学習に必要な基礎的学力もついてくる時期だと思います。そして、秋期が終わると2年生となり、学ぶべき学問の専門性もアップし、そろそろ卒業後の将来の自分をイメージし、大学でやるべきことを具体的に計画していく時期でもあります。本授業では、企業研究も踏まえて、みんなで意見交換しながら、将来就く仕事についてのイメージ作りをすることで、その具体的な計画に資することを目的としています。

授業計画

第1回	ガイダンス、春期の振り返りと秋期の展望
第2回	秋期の大学生活の目標を立てよう 履修計画を立てよう
第3回	大学での4年間の目標を設定しよう
第4回	将来就く仕事をイメージしてみよう
第5回	将来就く仕事について研究してみよう①
第6回	将来就く仕事について研究してみよう②
第7回	将来就く仕事についての研究成果を発表しよう①
第8回	将来就く仕事についての研究成果を発表しよう②
第9回	将来就く仕事についての研究成果を発表しよう③
第10回	日本の企業研究をしよう①
第11回	日本の企業研究をしよう②
第12回	日本の企業研究をしよう③
第13回	グローバルな視点を持つ。世界の産業も研究してみよう①
第14回	グローバルな視点を持つ。世界の産業も研究してみよう②
第15回	グローバルな視点を持つ。世界の産業も研究してみよう③
第16回	レポートの提出

到達目標

1. 将来のキャリア意識を持つことができる
2. 自己を理解し、他者を理解する力を身に付ける。
3. 将来のキャリア意識に基づいて、2年次以降の具体的な自己研鑽計画をイメージできる。

履修上の注意

授業では皆さんとの対話を積極的に試みますので、闊達な参加を期待します。

予習・復習

テキストは、大学での勉強に対する基礎的技法を身に付けるための知識がわかりやすく書いてありますので、適宜熟読してください。

評価方法

授業への積極的な参加 50%、発表資料50%

テキスト

- ・教科書名：アカデミック・スキルズ 第3版 ー大学生のための知的技法入門
- ・著者名：佐藤望（編著）、湯川武、横山千晶、近藤明彦
- ・出版社名：慶應義塾大学出版会
- ・出版年（ISBN）：2020年